

企業価値向上の一環で人材の育成に力を注ぐ古賀オール(社長・古畑勝茂氏)では新たに、社内における体系的な人材教育の場「古賀大学」を創設。9月から開講中だ＝写真。

主に30歳以下の若手営業担当者を対象に①製品知識②コミュニケーションスキル③技術知識④社内業務知識⑤パソコン講習⑥ビジネスマナーの6科目を設置。各科目には個別に複数の項目を用意した。それぞれの項目を受け持つ講師役は、その分野に適したリーダー、サブリーダークラスが中心となって担当する。

いわば「社員の、社員による、社員のための研修講座」というわけだ。座学が主体だが、生産系では来社した顧客との対話に同席し、顧客の要望を直接聞く機会もある。

次代を担う幹部候補生の育成プロジェクトとの位置付けであると同時に、講師役を担う若手・中堅管理職の勉強の機会にもなる。教える側、教わる側の双方にとって「自己研鑽」が図れ、人材レベルの底上げ

古賀オール

社内「古賀大学」開講 次代を担う人材育成

に寄与することを期待している。

同社ではこれまでも日常

的な社内教育(OJT)のほか、外部コンサルを起用した第三者機関研修も積極的に採り入れてきた。これらは、いわば「トップダウンによる戦略的取り組み」だが、今回は「ボトムアップによる自発的な取り組み」。教育研修を重視し、持続・強化する社内風土が醸成されてきたことをうかがわせる。

日常業務とのやりくりもあるので主には本社と北関東支店の営業担当者が対象となる。なお、本プロジェクトを「大学」としたのは「せっかくやるなら教育レベルの最高峰をめざす」ため。

